

編集後記

◆病気に追いつかれて、人生の店じまいを開始している最中に、電話で校正を送つています。吉川さんの体調も心配です。とにかくひどい時代ですね。皆様、お体を大切に頑張りましょう。

(天野恵二)

◆安倍政権が狙っている集団的自衛権の解釈改憲がここへきて与党内から批判が噴き出しきてきた。村上元行革担当相は「三権分立・立憲主義に反するもので言語道断」と厳しく批判。脇参院幹事長も「集団的自衛権の行使は憲法9条と相違ない」と発言した。公明党にも慎重論が拡大しつつある。その背景には、世論の警戒感がある。安倍首相は、石破幹事長を中心に総裁直属の機関を作り巻き返しを強めている。今が正念場だ。私たち一人一人の力が試されている。民主主義の力が試されている。

(西田和子)

◆石原環境相が参議院環境委員会に10分遅刻して陳謝したとか……それはともかく、先日テージがコンサートマスターの合図で一瞬に水を打つたように静まり返り、練習時刻きっかりにオーケストラの音合わせが開始。プロの意識と緊張感を体感。企業社会でも期限に遅れた仕事は成果ゼロに等しい。時間のことだけではないが、霞が関官僚や大企業社員に負けない高いマネジメント能力も持たなければ、怒りだけでは市民運動は勝てない。まして憎しみでは……

(野澤信二)

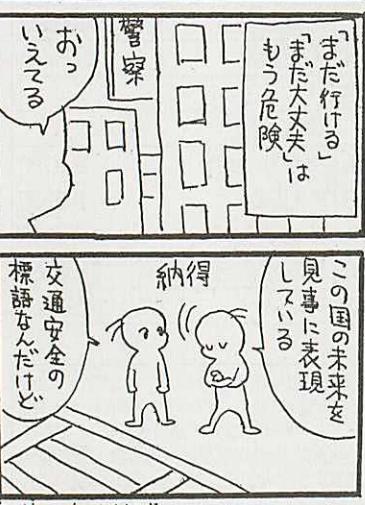
◆国際ニュースがせわしない。にわかに浮上したウクライナ問題により、シリア問題の影が薄くなつたが、解決したわけではない。それらと無関係のように、国内ニュースが報じられるのはもつと困る。その間隙を縫つて、安倍政権は着々政治を進める。

(高橋武智)

◆3月11日、東京から往復3千円の日帰りバスツアーで福島に行つてきました。バス組40名余を含め200名ほどの小さな脱原発デモが県庁前から商店街にさしかかった時、閉め切られた2階の窓越しに、何度も目頭を押さえながらデモ隊に手を振るおばあさんが見えました。言葉もかわさぬ出会いでしたが、原発に表立つて反対できない地域分断化の象徴のようでの姿が目に焼きついています。今号でインタビューした吉岡忍さんは3・11後、一念発起して自動車免許を取り、自らレンタカーを運転して交通が寸断された被災地を回られたそうです。一步足をふみ出して現場に行つてみよう(旅でも、デモや集会でも!)、自分の目で見よう、新しい出会いがあるかも、と、少しでもお伝えできればと思います。

(阿部めぐみ)

◆46年前の話。1968年のベ平連主催の「反戦と変革にかんする国際会議」で「勝利を我らに」を歌うはずのところ、主催者がもともとたしているうちに、全学連の「インター・シヨナル」の合唱になつた。その時、ベ平連原住民と称していた評論家の松田道雄さんは、



ベ平連は全学連に占拠されるだろうか、と考えたそうだ。松田さんは夜明けまで考えて占拠されないと結論した。会則なし、役員なし、自分の責任を持つことだけ協力する、自發的な人間の会合であるかぎり、なにものにも占拠されないと。私は、これを自分で決定する自由、強制されない自由、参加しない自由と読み替えてきた。安倍はこれとは正反対で企業経営と同じ手法で政治を行なおうとしている。

(有馬保彦)